

銀の皿

「慰めの主」



私の趣味はボーリングをする事です、その他に卓球をする事も好きです。中学校の時は卓球部に所属し、卓球に明け暮れました。この当時朝の6時前には起きて、朝練をし、昼休みにも練習をし、授業が終わって夕練をし、その後もっと練習したい時は町の体育館で練習していました。それくらい熱心に打ち込んでいました。月日は流れて、卓球部も引退して、高校も卒業し、社会人になった時の話です。たまたま開けたふすまから卓球のラケットが入ったケースを発見しました。その時、あの頃の情熱がふつふつと湧き上がり、再燃しました。「もう一回卓球したい!」そこから、パソコンを開きだし、インターネットで卓球の道具を売っているサイトを見る毎日になりました。「あのラケットいいな、あのラバー(強い回転やスピードを生み出すためにラケットの表面に張る赤や黒のゴム状のシート) いいなと」呟きだすようになりました。

そんなある時、自分が行っていた教会に町の卓球クラブに所属している人を思い出し、その方に「僕も(クラブに)入れて下さい!」とお願いしました。しかしその方の答えは私にとって意外で「やめておいた方がいいよ」と言うものでした。私にとって、それは大変ショックな答えでした。しかしこの当時、私は教会のバックスライドから立ち直り教会での仕事をやり始めていた時期でした。このお話は、教会の働きするために、趣味を止めなければいけないという話ではありません。そんな必要はありません。聖書が言う「誰も二人の主人に仕える事はできません」とあるように、誰に仕えるかという優先順位の話です。その教会員の方は、私が夢中になると周りが見えなくなる性格を知っていて、今本当に

大切にしなければいけないものを自覚させるために、卓球クラブに入
ことを勧めなかったのです。

なんでも与えるだけが親心ではなく、時には与えないで、私達が大切
な事を気付けるように導いて下さる。それが私達の天の父、神様です。
それを私達は時々「ひどい神様」「不条理な神様」「奪い取る神様」と
して不平を呟きだします。そして私達は神の主権から離れ、自らの意志
で勝手に生きてしまいます。今朝、学んだことはその先には救いはなく
永遠の悲しみに通じているという事です。今日学んだ大切な事は主への
信頼です。喪失感、痛み、不安、悲しみ、私達は人生の中でそのような
中を通ります。しかしそんな中でも主への信頼を続ける時、私達は慰め
を得ます。私達の主は私達と痛みを共にして下さり、永遠に歩む道を選
ばれた方です。私達が自らの過ちを悔い改めてイエス様を信じる時、こ
の慰めの主に出会います。私達は人生の中でどれだけ慰めの主に出会
うかが大切です。その時他者の痛みを共に痛む事が出来、他者の慰めの為
に祈り愛する者へと変えられて行きます。喜びと慰めに満ちた人生を送
れるよう共に主を見上げてまいりましょう。

